

— 株主の皆様とのコミュニケーションツール —

クラレ通信

第133期

2013年4—9月期 報告書

2013年4月1日～2013年9月30日

CONTENTS

- 1 … 会社概要
- 2 … 株主の皆様へ
- 3 … 2013年度第2四半期決算概況
／2013年度通期業績予想
- 5 … 【特集1】
新事業開発のスピードアップを推進
～素材の力に知恵をプラス～
- 7 … 【特集2】
これからの成長を担う主要事業のご紹介
- 9 … クラレグループトピックス
- 11 … 財務情報
- 13 … 株式情報
- 14 … お知らせ

株式会社 クラレ

会社概要

| | |
|--------|--|
| 社名 | 株式会社 クラレ |
| 英文社名 | KURARAY CO., LTD. |
| 設立 | 1926(大正15)年6月24日 |
| 資本金 | 890億円(2013年9月30日現在) |
| 東京本社 | 〒100-8115 東京都千代田区大手町1-1-3 大手センタービル TEL(03)6701-1000 FAX(03)6701-1005 |
| 大阪本社 | 〒530-8611 大阪市北区角田町8-1 梅田阪急ビル オフィスタワー TEL(06)7635-1000 FAX(06)7635-1005 |
| ホームページ | http://www.kuraray.co.jp/ |

クラレグループの主な事業

| | |
|----------|--|
| ビニリアセテート | ポパール樹脂・フィルム、PVB樹脂・フィルム、 EVOH樹脂・フィルムの製造、販売 |
| インプレン | インプレン系化学品、ポリアミド樹脂の製造、販売 |
| 機能材料 | メタクリル樹脂、メディカル関連製品、 人工皮革の製造、販売 |
| 繊維 | ビニロン、不織布、面ファスナー、 ポリエステル繊維の製造、販売 |
| トレーディング | 繊維製品、樹脂、化学品の輸出入、卸売 |
| その他 | 炭素材、水処理用高機能膜・システムの製造、販売、 エンジニアリング事業 |

- (注) 1.この冊子に記載した当社財務データはすべて連結ベースです。
2.この冊子に記載の(く)をつけた名称は、当社グループの製品の商標です。
3.この冊子に記載した億円単位の当社財務データ(実績値)は、億円未満を四捨五入して表示しています。

役員 (2013年9月30日現在)

| | |
|--------------|---------------|
| 代表取締役社長 | 伊藤 文大 |
| 代表取締役・専務執行役員 | 山下 節生 |
| 取締役・専務執行役員 | 村上 敬司 |
| 取締役・常務執行役員 | 天雲 一裕 |
| 取締役・常務執行役員 | 川原崎 雄一 |
| 取締役・常務執行役員 | 雪吉 邦夫 |
| 取締役・常務執行役員 | 藤井 信雄 |
| 取締役・常務執行役員 | 松山 貞秋 |
| 取締役(社外取締役) | 塩谷 隆英*1 |
| 取締役(社外取締役) | 浜口 友一*1 |
| 常勤監査役 | 蛭川 洋一 |
| 常勤監査役 | 真鍋 光昭 |
| 監査役(社外監査役) | 山田 洋暉*2 |
| 監査役(社外監査役) | 藤本 美枝*2 |
| 監査役(社外監査役) | 岡本 吉光*2 |
| 常務執行役員 | 綾 友幸 |
| 常務執行役員 | 久川 和彦 |
| 常務執行役員 | 伊藤 正明 |
| 執行役員 | 前田 公平 |
| 執行役員 | マティアス グトヴァイラー |
| 執行役員 | 山田 修 |
| 執行役員 | 武本 修一 |
| 執行役員 | 小野寺 正憲 |
| 執行役員 | 古宮 行淳 |
| 執行役員 | 保江 真一 |
| 執行役員 | 早瀬 博章 |
| 執行役員 | 渡辺 久一 |
| 執行役員 | 中山 和大 |
| 執行役員 | 阿部 憲一 |
| 執行役員 | 佐野 義正 |
| 執行役員 | ジョージ アブディ |
| 執行役員 | 時任 康雄 |
| 執行役員 | 河内 辰雄 |
| 執行役員 | 豊浦 仁 |

*1 塩谷 隆英、浜口 友一は、社外取締役です。

*2 山田 洋暉、藤本 美枝、岡本 吉光は、社外監査役です。



代表取締役社長
伊藤 文大

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当第2四半期連結累計期間(2013年4月1日~2013年9月30日)における経営環境は、前年度終盤より円高の局面が修正されましたが、欧州および中国経済の停滞継続、新興国経済の成長ペース鈍化により、全体的に需要に力強さを欠く状況が続きました。国内においても「アベノミクス」に対する期待感はあるものの、当社を取り巻く市場には顕著な効果はまだ見られていません。

こうした環境ではありましたが、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,993億円(前年同期比10.2%増)、営業利益は247億円(同3.2%増)、経常利益は249億円(同13.8%増)、四半期純利益は158億円(同23.7%増)と増収増益を果たすことができました。

一方、当社グループは持続的な成長を実現させるため、コア事業の世界戦略を加速するとともに、水・環境、エネルギー、光学・電子の各領域における次世代を担う事業の開発を積極的に推進しております。当期間中には、水溶性ポパールフィルムおよび高速伝送回路向け素材〈ベクスター〉の能力増強投資の決定、耐熱性ポリアミド樹脂〈ジェネスタ〉の設備稼働などを実施しました。

今後も厳しい経営環境が続くものと予想されます。しかしながら、〈エパール〉、水溶性ポパールフィルム、〈ジェネスタ〉に代表されるスペシャリティ化学素材事業が牽引し、通期の業績は売上高4,200億円、営業利益550億円と1割強の増収・増益、過去最高水準を見込むとともに、世界に存在感を示すスペシャリティ化学企業の実現に向けた諸施策を着実に実行してまいります。

また、当社は株主の皆様への利益配分を経営の重要課題と位置付け、連結当期純利益に対する配当性向35%以上を目標としています。今年度の当期純利益の見通しは年初に想定した水準には及びませんが、中間配当金は年初に公表いたしました通り、18円とさせていただきます。なお、当期の年間配当金につきましては予想連結当期純利益320億円を前提に、年初公表通り36円とさせていただきます予定です。

皆様には、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

伊藤文大

2013年度第2四半期決算概況

金額表示は、億円未満を四捨五入しております。

当第2四半期連結累計期間の経営環境は、前連結会計年度終盤より円高の局面が是正されましたが、米国経済こそ好調であったものの、欧州および中国経済の停滞継続、新興国経済の成長ペース鈍化により、全体的に需要に力強さを欠く状況が続きました。国内においても「アベノミクス」に対する期待感はあるものの、当社を取り巻く市場には顕著な効果はまだ見られていません。このような状況においても、当社グループは持続的な成長を実現させるため、コア事業の世界戦略を加速するとともに、水・環境、エネルギー、光学・電子の各領域において次世代を担う事業の開発を積極的に推進しています。

2013年度第2四半期決算概況

(億円)

| | 今期 | 前年同期 | 増減 |
|--------|-------|-------|------|
| 売上高 | 1,993 | 1,809 | +184 |
| 営業利益 | 247 | 239 | +8 |
| 経常利益 | 249 | 219 | +30 |
| 四半期純利益 | 158 | 127 | +30 |

参考

| | | | |
|------------|------|------|---|
| 円/ドル | 99 | 79 | - |
| 円/ユーロ | 130 | 101 | - |
| 国産ナフサ価格/KL | 65千円 | 55千円 | - |

2013年度第2四半期セグメント別業績

(億円)

| | 今期 | | 前年同期 | | 増減 | |
|-----------|-------|------|-------|------|-----|------|
| | 売上高 | 営業利益 | 売上高 | 営業利益 | 売上高 | 営業利益 |
| ●ビニルアセテート | 901 | 245 | 751 | 244 | 149 | 1 |
| ●イソプレン | 254 | 21 | 224 | 10 | 30 | 10 |
| ●機能材料 | 231 | 5 | 219 | 8 | 13 | △4 |
| ●繊維 | 213 | 13 | 225 | 10 | △12 | 4 |
| ●トレーディング | 530 | 17 | 542 | 16 | △12 | 1 |
| ●その他 | 305 | 14 | 317 | 22 | △12 | △8 |
| 調整額 | △441 | △69 | △469 | △71 | 28 | 3 |
| 合計 | 1,993 | 247 | 1,809 | 239 | 184 | 8 |

セグメント別の状況

●ビニルアセテート

水溶性ポパールフィルムは旺盛な需要を背景に順調に拡大しましたが、光学用ポパールフィルムは液晶テレビの需要が伸び悩み、販売量は微増に留まりました。ポパール樹脂は欧米での伸長があるものの、アジアでは競合激化の影響を受けました。また、PVBフィルムは欧州の景気低迷の影響を強く受けました。

なお、洗剤用途の旺盛な需要拡大に対応するため、米国で水溶性ポパールフィルムの増設を決定し、工事を進めています。

EVOH樹脂〈エパール〉は、米国、アジアを中心に順調に拡大しました。

●イソプレン

イソプレン関連では、液状ゴムの需要は低調に推移しましたが、ファインケミカルおよび熱可塑性エラストマー〈セプトン〉は需要が回復しました。

耐熱性ポリアミド樹脂〈ジェネスタ〉は、LED反射板・コネクタ用途、自動車用途ともに好調でした。

2013年度通期業績予想

2013年度業績予想概況

(億円)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 |
|----------------|------------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 2013年度 業績予想 | 4,200 | 550 | 535 | 320 |
| 2012年度 実績 | 3,694 | 492 | 486 | 288 |
| 増減 | +506 (+13.7%) | +58 (+11.8%) | +49 (+10.1%) | +32 (+11.1%) |

2013年度セグメント別業績予想

(億円)

| | 売上高 | | | 営業利益 | | |
|-----------|-------|-------|-------|------|-----|------|
| | 上期 | 下期 | 通期 | 上期 | 下期 | 通期 |
| ●ビニルアセテート | 901 | 969 | 1,870 | 245 | 255 | 500 |
| ●インプレッ | 254 | 276 | 530 | 21 | 39 | 60 |
| ●機能材料 | 231 | 269 | 500 | 5 | 15 | 20 |
| ●繊維 | 213 | 257 | 470 | 13 | 17 | 30 |
| ●トレーディング | 530 | 570 | 1,100 | 17 | 18 | 35 |
| ●その他 | 305 | 365 | 670 | 14 | 16 | 30 |
| 調整額 | △441 | △499 | △940 | △69 | △56 | △125 |
| 合計 | 1,993 | 2,207 | 4,200 | 247 | 303 | 550 |

第3四半期以降の平均為替は米ドル100円、ユーロ130円、
国産ナフサ価格65千円/KLを前提としています。

●機能材料

メタクリル樹脂は、市況低迷および原燃料価格
上昇の影響を受けました。

メディカルは、歯科材料の販売が堅調に推移し
ました。

人工皮革〈クラリーノ〉は、新プロセス品の拡販
が遅れ、全体として低調に推移しました。

●繊維

ビニロンは、ブレーキホース用途、アスベスト
代替のFRC(繊維補強セメント)用途ともに堅
調に推移しました。

●トレーディング

一部の事業は景気低迷の影響を受け伸び悩み
ましたが、ポリエステルをはじめとする繊維関
連事業は堅調に推移しました。

●その他

活性炭事業は、浄水・エネルギー関連用途を主
体に堅調に推移しました。活性炭以外の事業に
ついては総じて景気低迷の影響を受けました。

新事業開発のスピードアップを推進 ～素材の力



執行役員 新事業開発本部長 阿部 憲一

Q1 | 新事業開発本部の ミッションと方針について 教えてください。

当社は「世のため人のため、他人のやれないことをやる」という企業文化を背景に、「世界に存在感を示すスペシャリティ化学企業」を実現するべく持続的な成長を目指しており、その一環として、「新事業の創出・拡大」を重要課題として取り組んでいます。

本年4月の組織改定で、2012年度までの新事業開発本部は、コア事業の基盤技術強化と新事業開発のスピードアップを図るため、研究開発本部と新事業開発本部に分割されました。そして新たな新事業開発本部は、電子材料、微細成形部材などの重点テーマの早期事業化をミッションとしています。

「独創性の高い技術により全地球的課題に効果的な解決策を提供する」という長期企業ビジョンのコンセプトに沿って、当社の強みである素材（モノ）の力に加工技術（知恵）をプラスし、顧客に提供していくことを方針としています。

新事業は事業化手前で苦労することが多いです。その大きな理由の一つは当たり前のことではありますが、採用実績が無い、あるいは少ないことです。製品の信頼性を証明し難いがために採用が進まないのです。

原点に立ち返り、顧客の立場になって、当社の素材・知恵が顧客のどのような用事を片付けるのか、どのような問題を解決するのかを徹底的に考えることが大切だと考えています。顧客の本当のニーズを理解し、説得できるデータを積み上げていくことが採用実績の代わりとなり得るからです。

Q2 | 事業化に近いテーマについて 具体的に教えてください。

▶液晶ポリマーフィルム〈ベクスター〉

最も事業化に近い位置にあるのが〈ベクスター〉。これは、独自の製造技術開発により回路基板材料用途に性能をチューニングした液晶ポリマーフィルムです。スマートフォンなどの無線通信では高速・大量のデータ伝送が必要になっており、伝送損失の低減を可能にする回路基板材料として〈ベクスター〉が注目を集めています。この状況を受け、来年4月稼働の生産能力増強投資を決定、本格的な事業化を推進しています。



液晶ポリマーフィルム〈ベクスター〉

▶半導体用研磨パッド

半導体製造プロセスで半導体を積層するための平坦化工程で使用されるCMP (Chemical Mechanical Polishing、化学機械研磨)パッドでの市場参入を目指しています。当社は独自設計の熱可塑性ポリウレタンを原材料としており、他社品に比べ、パッドの長寿命化、研磨傷の低減などの特性を備えています。現在、採用に向けて顧客での評価を進めている段階です。

▶成形部材

集光型太陽光発電用レンズ、微細パターン賦形フィルム、LED照明用導光板など、当社が有する微細成形加工技術を活用し、シート・フィルムの表面にレンズ構造やプリズム構造を形成した製品の市場導入を展開しています。集光型太陽光発電は、一般的な平板型の太陽光発電に比べ、高い発電効率を有します。直射日光照射時間が長い中東、北アフリカ地域などでの採用が期待されています。微細パターン賦形フィルムは、アミューズメント・電飾掲示板など光や映像をコントロールする用途への展開を図っており、すでに一部の用途で採用されています。当社の設計したLED導光板は、高効率の面発光・高出光効率・薄型軽量という特徴があり、競合技術では設計が困難なデザインの照明器具への参入を目指し、照明メーカーとタイアップすることで事業化の促進を図っています。



集光型太陽光発電システム

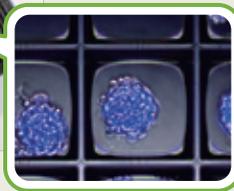


▶細胞培養プレート〈エルプラシア〉

細胞培養プレートとは、製薬会社において薬の効果や毒性を調べるための実験用の細胞を培養するためのシャーレのことです。当社のシャーレには底に正確で微細な柵が並んでおり、その柵の中で大きさのそろった細胞の塊を、3次元で培養することができます。従来は平らなシャーレでの2次元培養が主流でしたが、3次元培養により自然な状態に近いデータが取れるようになり、薬効や毒性の判定をより正確に行うことが可能になると期待されています。また、国が推進する再生医療実現拠点ネットワークプログラムの一つ、横浜市立大学谷口教授の「iPS細胞を用いた代謝性臓器の創出技術開発拠点」プロジェクトに、当社は細胞培養プレート開発で参画しています。今後は、iPS細胞などによる再生治療用の細胞の大量培養にも適用できる可能性があると考えています。



細胞培養プレート〈エルプラシア〉



培養細胞の電子顕微鏡写真

これからの成長を担う主要事業のご紹介

ガスバリア性樹脂〈エパール〉

クラレが世界に先駆けて開発した〈エパール〉はプラスチックの中で最高の気体遮断性を持つ機能性樹脂です。酸素を遮断して内容物の劣化を防ぐことから、マヨネーズやケチャップをはじめ、各種食品包装材に広く使用されています。またプラスチック製ガソリンタンクに採用され、揮発ガソリンの漏えい防止や自動車の軽量化に役立っています。その他、冷蔵庫の省電力化を可能にする真空断熱板などの新しい分野でも需要が拡大しつつあります。従来、〈エパール〉の市場は先進国が中心でしたが、新興国でも経済成長に伴い、需要が増加傾向にあります。これに伴い、2013年10月に北米拠点で年産12,000トンの能力増強を行いました。

一方、タイは世界の食品加工基地であり、また東南アジアにおいて自動車産業の核として発展を続けており、クラレのグローバル戦略上、重要な地域です。そこで、まずは〈エパール〉の販売、市場開発拠点としてタイに現地法人を設立し、2012年8月より営業を開始しました。今後、これらの海外現地法人を活用し、新興国市場の開拓を図っていきます。



〈エパール〉使用食品包装材



プラスチック製ガソリンタンク

水溶性ポパールフィルム

2012年6月に、“酢ビ・ポパール系事業”の拡大戦略の一環として、米国のポリビニルアルコール(ポパール)フィルムメーカーであるMonoSol社を買収しました。MonoSol社は、洗剤・農薬・染料などの個包装、人工大理石離型用など産業用ポパールフィルムではリーディングカンパニーであり、当社はポパールフィルムに関し、液晶ディスプレイの基幹部材である偏光フィルム向けの光学分野だけでなく、広範な産業分野においてもグローバルリーダーとなります。

2013年6月には洗剤・農薬・染料などの個包装フィルムに使う水溶性ポパールフィルムの、米国・欧州市場を中心とした旺盛な需要に対応するため、増設を決定しました。



水溶性ポパールフィルムを使用した個包装洗剤

耐熱性ポリアミド樹脂〈ジェネスタ〉

〈ジェネスタ〉はクラレが原料モノマーから自社開発した、独自のポリアミド系エンジニアリング・プラスチックで、優れた耐熱性、耐薬品性と、繰返し摩擦に耐えられる特性=摺動性に優れた成形材料です。携帯電話やパソコンなどのコネクタをはじめ、LED反射板、自動車部品まで用途を拡大しています。

近年、〈ジェネスタ〉の持つ耐熱性、低吸水性、耐薬品性、ガスバリア性、高摺動性等が評価され、自動車部材への採用が本格化しています。自動車用途は、これまで各種小型ギアや燃料関連部品を中心に市場開発を継続してきましたが、各国で一層の高まりを見せている排気ガス排出規制や車体の軽量化による燃費効率アップの趨勢を背景に、金属部品のプラスチック化の動きが活発化しており、燃料系、冷却系、摺動系部品を中心に需要が拡大しています。今後は、日本国内のみならず海外でも展開していきます。

需要拡大に伴いジェネスタ事業は年率10%以上で成長しており、2013年8月には鹿島事業所における能力増強を実施しました。



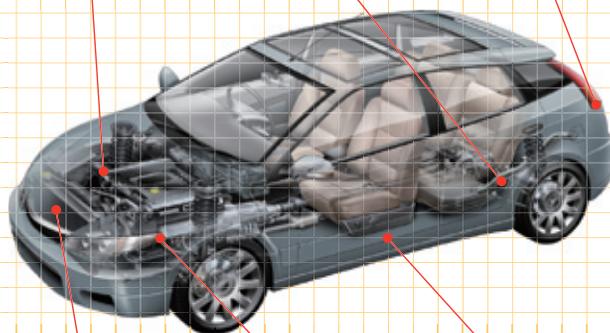
インタークーラータンク



燃料配管



ワイパーモーターギア



サーモスタット



ワイヤーハーネス
保護チューブ



スライドドア用
ローラー

2013年4-9月のクラレグループの主なニュー

米国における産業用ポバールフィルム生産設備の増設を決定

当社は、洗剤・農薬・染料などの個包装フィルムに使う産業用ポバールフィルムの旺盛な需要に対応するため、米国・インディアナ州(MonoSol(モノソル))での増設を決定しました。

設備増設の背景

産業用ポバールフィルムの需要拡大(特に米国・欧州市場を中心に伸長する個包装洗剤向け水溶性フィルム用途)に対応し、安定供給体制を維持するために生産設備の増設が必要と判断しました。



モノソルの概要

設備増設の概要

| | |
|------|-----------------|
| 場 所 | 米国・インディアナ州・ラポルテ |
| 投資額 | 約35百万USD |
| 稼働時期 | 2014年7月予定 |

| | |
|------|--|
| 資本金 | 59百万USD |
| 事業内容 | 産業用ポバールフィルム(洗剤・農薬・染料などの個包装、人工大理石離型用など)の製造・販売 |

スキージャンプ 高梨沙羅選手 クラレ所属に!

昨期のFIS女子ワールドカップで史上最年少での個人総合優勝を成し遂げた、スキージャンプ 高梨沙羅選手が当社に所属を変更しました。高梨沙羅選手は、8歳からジャンプ競技を開始し、めきめきと頭角をあらわし、ジュニア日本代表として海外、特にジャンプ競技が盛んな欧州を転戦するようになりました。

一方当社は、スペシャリティ化学メーカーとしてグローバル展開を推進し、欧州においてもドイツ・ベルギー・ロシア・イギリスに生産工場を有するなど幅広く事業を展開しております。ベルギーの現地法人に高梨選手のご親族が勤務しており、社内で同選手の支援をしたいとの機運が高まったことで、今回の所属変更が実現しました。世界を舞台にますます活躍の場を広げていく高梨選手を、当社はクラレグループの一員として応援していきます。

▶高梨選手応援サイトができました!どうぞご覧ください。
www.kuraray.co.jp/sara/

高梨沙羅選手プロフィール

| | |
|-------|------------------------|
| 生年月日 | 1996年10月8日 |
| 出身地 | 北海道小川町 |
| 職 業 | 学生/グレースマウンテン国際ショナルスクール |
| 所属クラブ | クラレ |



2013年 4月

5月

6月

「耐熱性ポリアミド9T〈ジェネスタ〉の開発と工業化」が高分子学会賞を受賞

「耐熱性ポリアミド9T〈ジェネスタ〉の開発と工業化」により、公益社団法人高分子学会から「平成24年度高分子学会賞(技術部門)」を受賞しました。高分子学会賞は、社団法人高分子学会が我が国の高分子科学および技術の進歩を図るため、独創的かつ優れた業績を挙げた会員を対象に、「技術」と「科学」の2部門でその功労を顕彰するものです。当社の「耐熱性ポリアミド9T〈ジェネスタ〉の開発と工業化」の受賞は、

- 独自技術により開発された素材により、電気・電子機器、LED光源、自動車分野における先端製品の普及に貢献した。
- 2000年以降、年産10,000トン規模に育った新規ポリマーは耐熱性ポリアミド9Tしか無く、新しいポリマー素材が生まれにくい閉塞感を打破し、日本のポリマー産業が世界に先駆けて新しいポリマーを生み出す強力な動機付けとなる。ことなどが評価されたものです。

耐熱性ポリアミド9T:当社製品名〈ジェネスタ〉について

- 当社が世界で初めて工業化したノナンジアミン(炭素数9のジアミン:〈ジェネスタ〉の主要原料モノマー)を使用した耐熱性ポリアミド樹脂で、1999年に当社が工業化した。
- 耐熱性、耐光性、耐薬品性、摺動性(摩擦に強い特性)、低吸水性に加え、寸法精度に優れるなどの特長を有する。



電子部品(コネクタ)例



LED部品例



自動車部品
(インタークーラータンク)例

スをご紹介します。

※記載している情報は発表日時点のものです。

米Vitriflex Inc. (ヴィトリフレックス社) に戦略的投資

太陽電池やディスプレイ向けの超防湿フィルム開発のベンチャー企業、Vitriflex Inc. (以下 ヴィトリフレックス社) への戦略的出資を完了、戦略的パートナーシップを締結しました。

当社は次世代を担う新事業の開発を推進しており、将来の成長領域での有望な新技術探索機能を強化する目的で2011年よりカリフォルニア州シリコンバレーに拠点を設け、当社とシナジーのある技術を保有するベンチャー企業等と積極的に技術交流を進めてきました。

ヴィトリフレックス社は世界最高レベルのバリア性能を持つ、透明防湿フィルムの製造技術を保有しています。各種電子デバイスにおいては、デバイス本体を湿気や酸素から守るために、現在はガラスが使用されていますが、ガラスを当該フィルムに置き換えることで、フレキシブル化、軽量化を達成することができるため、次世代電子デバイスにおいて鍵となる技術と言えます。

当社は、当該技術のさらなる発展が、「光学・電子」分野を重点強化領域に掲げる当社の方針と合致することから今回の出資を決定しました。

ヴィトリフレックス社について

2010年に設立された、カリフォルニア州シリコンバレーに拠点を置く、フレキシブル電子機器向け超防湿フィルムの先端技術開発企業。

耐熱性ポリアミド樹脂〈ジェネスタ〉の生産能力増強について

耐熱性ポリアミド樹脂〈ジェネスタ〉の世界的な需要拡大に対応するため、鹿島事業所(茨城県神栖市)の生産能力増強を実施しました。

能力増強の背景

〈ジェネスタ〉は、電気・電子部品分野、LEDバックライト部品分野に加え、燃料配管やインタークーラータンクなど自動車部品分野での採用が進んでいます。また、LED照明分野への展開も始まりつつあり、これらの市場拡大に対応するために〈ジェネスタ〉生産能力の増強が必要と判断しました。

能力増強の概要

| 場 所 | 生産能力(トン/年) | |
|-------|------------|------------------|
| | 現有能力 | 増強後 (2013年8月) |
| 鹿島事業所 | 6,000 | 9,000 |
| 西条事業所 | 4,000 | 4,000 |
| 合 計 | 10,000 | 13,000 |



7月

8月

9月

液晶ポリマーフィルム〈ベクスター〉の生産能力増強について

高速伝送対応回路基板材料として使用される液晶ポリマーフィルム〈ベクスター〉の事業拡大を加速するため、西条事業所(愛媛県西条市)の生産能力増強を決定しました。

能力増強の背景

当社は次世代を担う新事業の開発を推進しています。その中で、光学・電子領域において市場の創出・拡大を図ってきた〈ベクスター〉の需要拡大を見込んでいます。スマートフォン・タブレットでは無線通信の高速化・大容量化が世界規模で急速に進展しており、これに伴い、低伝送損失な回路基板材料が求められています。〈ベクスター〉は回路基板としての伝送損失が小さく、かつ、手はんだ耐熱性などの実用物性にも優れた回路基板材料です。また、〈ベクスター〉を用いることにより、部品の一体化によるコストダウンと省スペースが実現可能となります。このような状況下、当社は〈ベクスター〉の事業拡大を積極的に推進するため、生産能力増強が必要と判断しました。

〈ベクスター〉の特長

1. 当社独自の製造技術による回路基板用の液晶ポリマーフィルム
2. 優れた回路特性(高速信号を低損失で伝送可能)
3. 実用性に優れた回路基板(高い耐熱性を有する)

能力増強の概要

| 場 所 | 生産能力(万m ² /年) | |
|-------|--------------------------|----------------------|
| | 現有能力 | 増強後 (2014年4月稼働予定) |
| 西条事業所 | 40 | 100 |

2013年度第2四半期

連結損益計算書の要約

(単位:億円)

| 科目 | 第2四半期*1 | 前第2四半期*2 | 増減 |
|------------------------|--------------|----------|-----|
| 売上高 | 1,993 | 1,809 | 184 |
| 売上原価 | 1,362 | 1,226 | 137 |
| 売上総利益 | 631 | 583 | 47 |
| 販売費及び一般管理費 | 384 | 344 | 40 |
| 営業利益 | 247 | 239 | 8 |
| 営業外収益 | 22 | 17 | 5 |
| 営業外費用 | 20 | 37 | △17 |
| 経常利益 | 249 | 219 | 30 |
| 特別利益 | — | — | — |
| 特別損失 | 4 | 15 | △11 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 245 | 203 | 42 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 89 | 68 | 21 |
| 法人税等調整額 | △3 | 5 | △9 |
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 159 | 130 | 29 |
| 少数株主利益 | 2 | 3 | △1 |
| 四半期純利益 | 158 | 127 | 30 |

*1: 2013年4月1日～2013年9月30日 *2: 2012年4月1日～2012年9月30日

※損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書の金額表示は、億円未満を四捨五入しています。

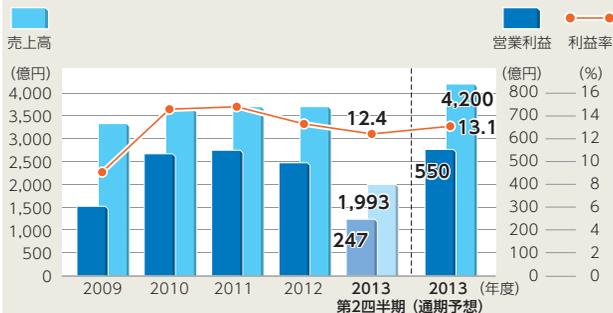
連結貸借対照表の要約

(単位:億円)

| 資産の部 | 第2四半期*1 | 前期*2 | 増減 |
|-----------------|--------------|-------|------|
| 流動資産 | 2,771 | 2,572 | 199 |
| 現金及び預金 | 370 | 462 | △92 |
| 受取手形及び売掛金 | 864 | 838 | 26 |
| 有価証券 | 545 | 317 | 228 |
| 棚卸資産 | 869 | 833 | 36 |
| 繰延税金資産 | 61 | 57 | 3 |
| その他 | 69 | 72 | △4 |
| 貸倒引当金 | △6 | △7 | 1 |
| 固定資産 | 3,399 | 3,300 | 99 |
| 有形固定資産 | 1,969 | 1,813 | 157 |
| 建物及び構築物 | 430 | 419 | 11 |
| 機械装置及び運搬具 | 854 | 823 | 31 |
| 建設仮勘定 | 429 | 323 | 106 |
| その他 | 256 | 247 | 9 |
| 無形固定資産 | 555 | 513 | 42 |
| 投資その他の資産 | 874 | 974 | △100 |
| 投資有価証券 | 742 | 835 | △93 |
| その他 | 133 | 140 | △7 |
| 貸倒引当金 | △0 | △1 | 0 |
| 資産合計 | 6,170 | 5,873 | 298 |

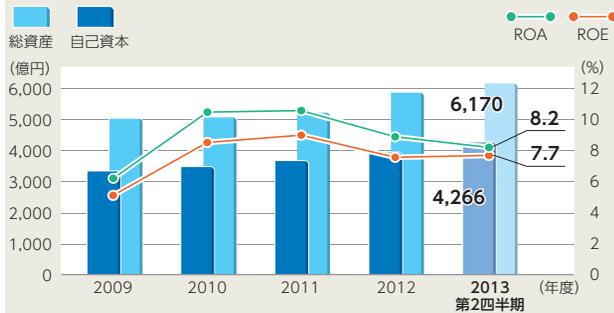
*1: 2013年9月30日現在 *2: 2013年3月31日現在

売上高・営業利益・営業利益率



*営業利益率=営業利益÷売上高×100(%)

総資産・ROA・自己資本・ROE



*ROA(総資産利益率)=営業利益÷期首・期末平均総資産×100(%)

*ROE(自己資本利益率)=当期純利益÷期首・期末平均自己資本×100(%)

(単位:億円)

| 負債の部 | 第2四半期*1 | 前期*2 | 増減 |
|--------------------|--------------|-------|------|
| 流動負債 | 1,020 | 1,114 | △ 94 |
| 支払手形及び買掛金 | 288 | 370 | △ 83 |
| 短期借入金 | 368 | 309 | 59 |
| その他 | 365 | 435 | △ 70 |
| 固定負債 | 820 | 745 | 75 |
| 社債 | 100 | 100 | — |
| 長期借入金 | 323 | 282 | 41 |
| その他 | 397 | 363 | 34 |
| 負債合計 | 1,840 | 1,859 | △ 19 |
| 純資産の部 | 第2四半期*1 | 前期*2 | 増減 |
| 株主資本 | 4,099 | 3,992 | 107 |
| 資本金 | 890 | 890 | — |
| 資本剰余金 | 871 | 871 | — |
| 利益剰余金 | 2,723 | 2,633 | 90 |
| 自己株式 | △ 385 | △ 402 | 17 |
| その他の包括利益累計額 | 167 | △ 44 | 211 |
| その他有価証券評価差額金 | 65 | 61 | 5 |
| 繰延ヘッジ損益 | △ 0 | △ 0 | △ 0 |
| 為替換算調整勘定 | 110 | △ 99 | 208 |
| 年金負債調整額 | △ 8 | △ 6 | △ 2 |
| 新株予約権 | 10 | 12 | △ 2 |
| 少数株主持分 | 54 | 53 | 0 |
| 純資産合計 | 4,330 | 4,013 | 317 |
| 負債及び純資産合計 | 6,170 | 5,873 | 298 |

*1: 2013年9月30日現在 *2: 2013年3月31日現在

連結キャッシュ・フロー計算書の要約

(単位:億円)

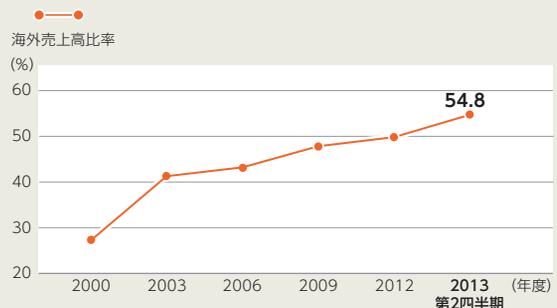
| 科目 | 第2四半期*1 | 前第2四半期*2 |
|-------------------------------|--------------|----------|
| 1.営業活動によるキャッシュ・フロー | 233 | 248 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 245 | 203 |
| 減価償却費 | 164 | 138 |
| 法人税等の支払額又は還付額 (△は支払) | △ 93 | △ 92 |
| その他営業活動による支出 | △ 84 | △ 2 |
| 2.投資活動によるキャッシュ・フロー | △ 309 | △ 3 |
| 有形・無形固定資産の取得による支出 | △ 249 | △ 194 |
| 連結範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出 | — | △ 311 |
| その他投資活動による収支 | △ 60 | 501 |
| 3.財務活動によるキャッシュ・フロー | 47 | △ 134 |
| 借入金の純増減額 | 100 | △ 73 |
| 配当金の支払額 | △ 63 | △ 59 |
| その他財務活動による収支 | 10 | △ 1 |
| 4.現金及び現金同等物に係る換算差額 | 12 | △ 7 |
| 5.現金及び現金同等物の増減額 | △ 16 | 105 |
| 6.現金及び現金同等物の期首残高 | 299 | 348 |
| 7.新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額 | 0 | — |
| 8.現金及び現金同等物の四半期末残高 | 283 | 453 |

*1: 2013年4月1日～2013年9月30日 *2: 2012年4月1日～2012年9月30日

設備投資額・減価償却費・研究開発費



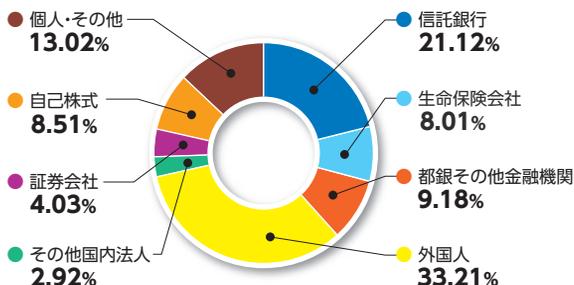
海外売上高比率推移



株式の状況

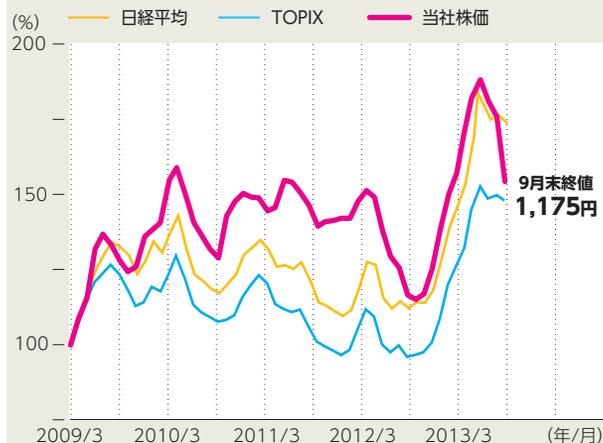
発行可能株式総数 **1,000,000,000 株**
 発行済株式の総数 **382,863,603 株**
 株主数 **45,052 名**

株主構成



当社株価と主要指標との比較 (2009年3月～2013年9月)

2009年3月を100として、各指標の動きを指数化して比較しています。



10年目を迎えた「ランドセルは海を越えて」

使い終わったランドセルをアフガニスタンの子どもたちに贈る国際社会貢献活動「ランドセルは海を越えて」。おかげさまで今年で10年目を迎えることができました。6年間の思い出が詰まったランドセルを何かに役立てられないか?とのご意見を頂戴し、2004年から始めた活動です。毎年全国各地からいただいているランドセル、海を渡った累計が8万個を超えました。これからも、ご協力いただいた方の思いを、現地の子どもたちに届けていきたいと思ひます。



アンケートご協力をお願い

2013年12月20日(金)まで

「クラレ通信」をご覧いただきまして、ありがとうございます。
今後とも株主の皆様との双方向のコミュニケーションを図っていきたく思います。
つきましては、アンケートにご協力くださいますようお願い申し上げます。
なお、プレゼントをスピーディーにお届けするため、アンケートの回答を原則Web経由とさせていただきます。
将来的にWebのみの受付に集約することを考えておりますので、パソコンから以下アンケートサイトにアクセスの上、是非ご利用くださいますようお願いいたします。

ご回答いただいた方には
**2014年版
クラレグループカレンダー
をプレゼントいたします。**

アンケートサイト(画面)への接続方法

Yahoo! JAPAN©やGoogle©などの検索エンジンからアンケートサイトを呼び出します。

株主ひろば 検索

または、下記URLをご入力ください。
www.kabuhiro.jp

ご回答方法



アンケートサイト画面中央の入力ボックスに、アンケートナンバー●●●●●●を入力の上、回答画面にお進みください。
事前に同封の配当金計算書・配当金領収証をお手元にご準備ください。

2014年版クラレグループカレンダー「ひかりのうた」

未来に化けるであろう人材を見出し、応援するという考えのもと、クラレグループのカレンダーを新鋭写真家の発表のステージとしています。2014年版カレンダーは、光とトーンをいかした撮影を得意とする若手写真家のかくたみほさん。「光」をテーマにした自然風景の写真をメインビジュアルとし、撮影時のエピソードとともにご紹介します。



表紙



7月

見開き時B3サイズ
(タテ約52cm×ヨコ約36cm)
の両面印刷で7枚14ページ
構成です。

操作方法などの問い合わせ先

株式会社クラレ IR・広報部
電話:03-6701-1075
平日 9:00-12:00/13:00-17:30 土日祝日 休み

*インターネットをご利用できない場合は、添付のアンケートはがきによるご回答も受け付けいたします。なお、はがきによるご回答の場合、プレゼントの発送が遅れる場合がございます。予めご了承ください。

株主ひろば

このアンケートは、株式会社アイ・アール ジャパン(IR支援会社)が運営するWebアンケートシステム「株主ひろば」を利用して実施しています。

クラレは世界的な社会的責任投資 (SRI) 株式指数の構成銘柄に選定されています。

kuraray

【表紙の写真について】

アイスランド共和国にある温泉施設「ブルーラグーン」。日没時の繊細な光がお湯の色を微妙に変化させています。

2014年版クラレグループカレンダー「ひかりのうた」の1月を飾る写真です。「自然」をテーマとした写真で12ヵ月を綴るこのカレンダーを、アンケートにご回答いただいた方にプレゼントいたします。ご応募に関する詳細は、14ページの「アンケートご協力をお願い」をご参照ください。

株式に関する住所変更等のお届出および ご照会について

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) ☎ 0120-782-031 (受付時間 土・日・祝祭日を除く9時~17時)